

## 平成 27 年度 滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」アンケート調査

### < 目 的 >

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることや生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上をねらいとして、「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援」「土曜日の教育支援」といった各事業を推進している。

上記事業について、本年度の達成状況やこれまでの成果と課題を把握し、今後の施策に生かす必要があるため、各事業を実施している学校およびコーディネーター、市町教育委員会にアンケート調査を行った。

### < 対象および回収率 >

平成 27 年 11 月 1 日現在、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」を実施している以下を対象に、調査票を送付（11/5 付）し、回答（12/9 締切）いただいた。

#### 【 学校支援地域本部 】

- ①学校 113 校園（小 73、中 20、幼 20）
- ②コーディネーター 104 名 ※回収率 94.2%（98 名）
- ③市町教育委員会 9 市町

#### 【 放課後子ども教室 】

- ①コーディネーター 12 名（市町行政職員 3 名）※回収率 92%
- ②市町教育委員会 4 市町

#### 【 家庭教育支援 】

- ①学校 19 校園（小 18、幼 1）
- ②コーディネーター 20 名（市町行政職員 8 名）※回収率 90%（18 名）
- ③市町教育委員会 8 市町

#### 【 土曜日の教育支援 】

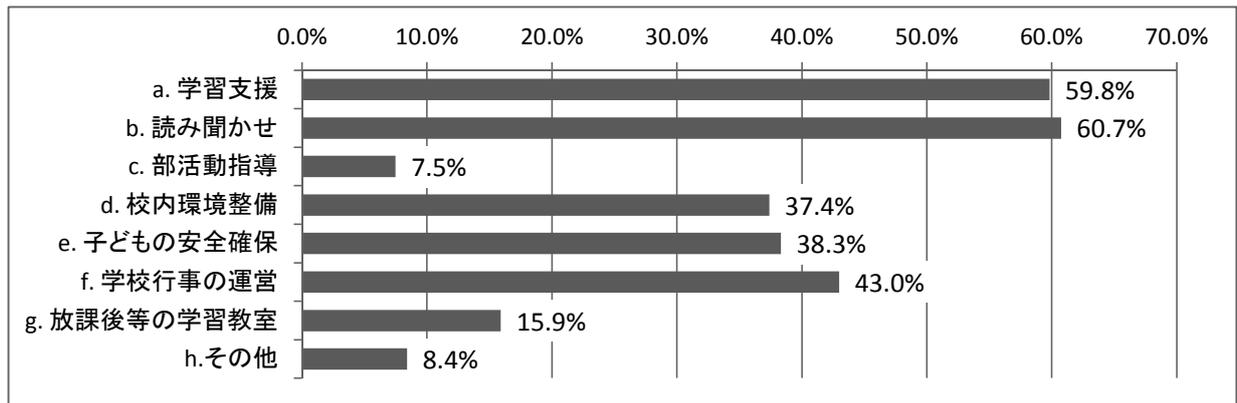
- ①コーディネーター 29 名（市町行政職員 6 名）※回収率 90%（26 名）
- ②市町教育委員会 6 市町

### < 調査結果の活用 >

- ・事業評価に使用
- ・実践事例集および当課ホームページ「におねっと」にて公表
- ・各市町にフィードバック

# 【 学校支援地域本部 】

## 問1 貴校・園で、本部事業として、特に重視している活動はどれですか。[学校・園]

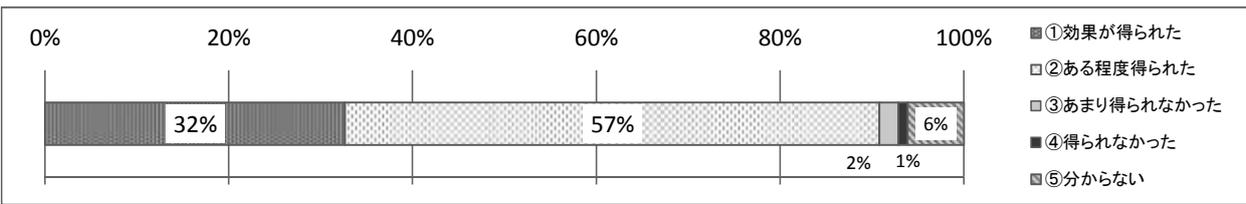


「h. その他」における主な意見

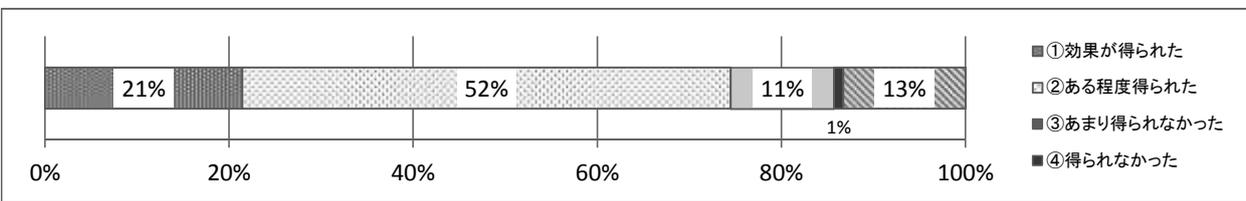
- ・お年寄りとの交流
- ・地域行事への参加
- ・幼稚園での生活支援
- ・補助教材作成
- ・託児
- ・クラブ活動支援

## 問2-① 貴本部では、本部事業はどの程度効果があったと考えていますか。[地域コーディネーター]

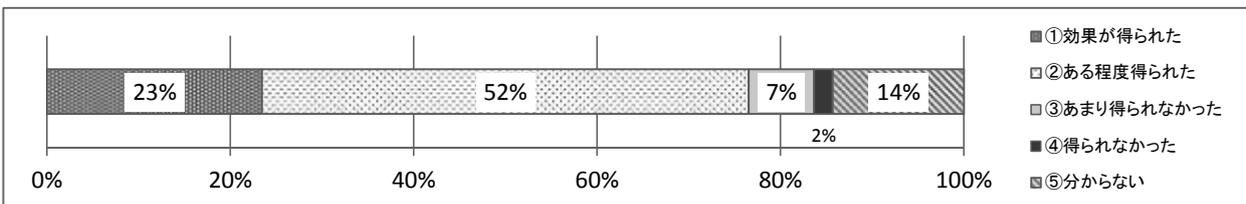
A 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった



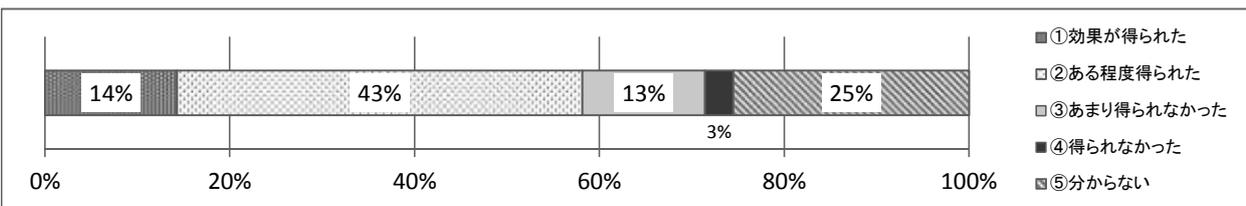
B 地域住民が学校を支援することによって、教員が授業や生徒指導などに、より力を注ぐことができた



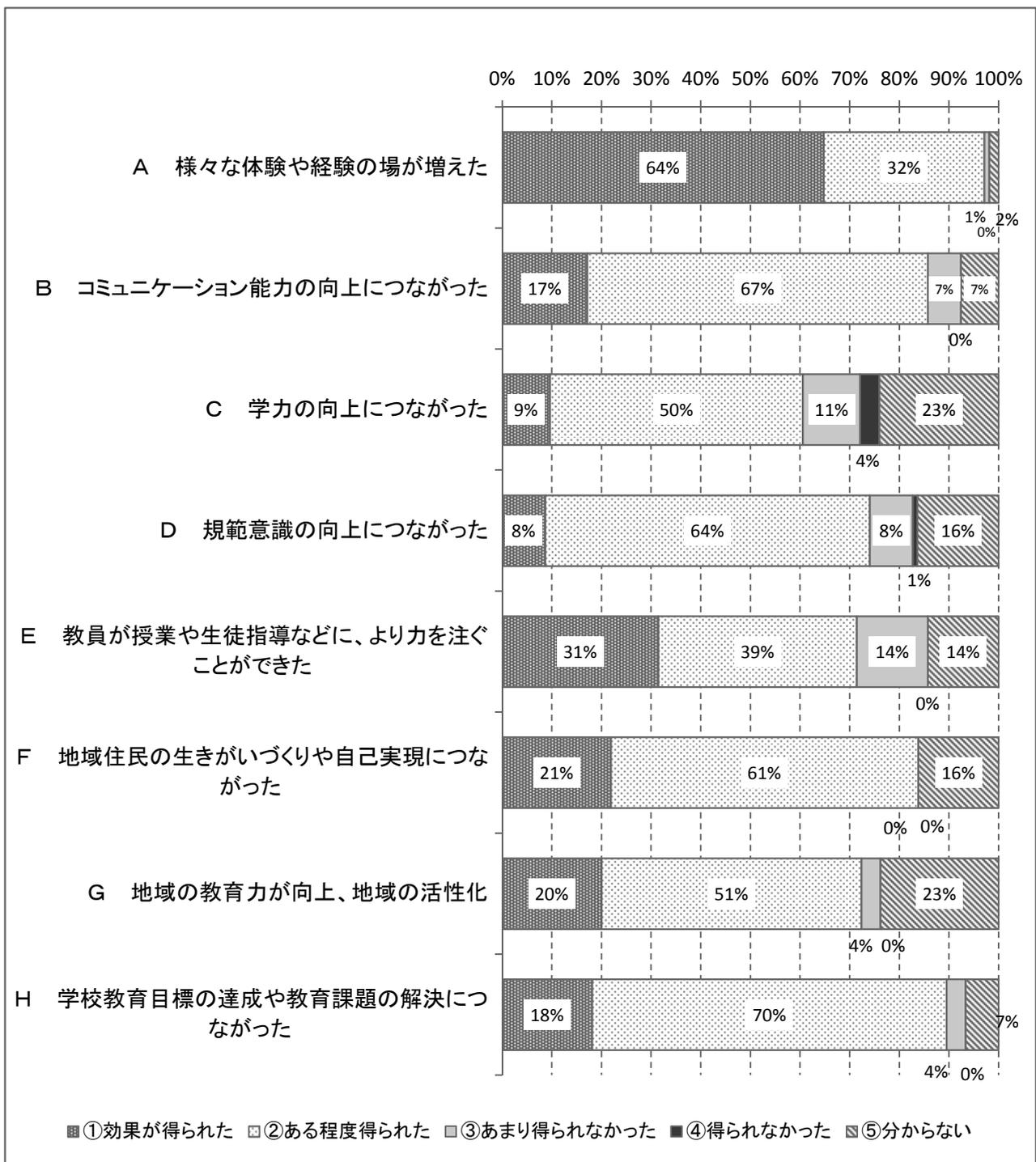
C 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった



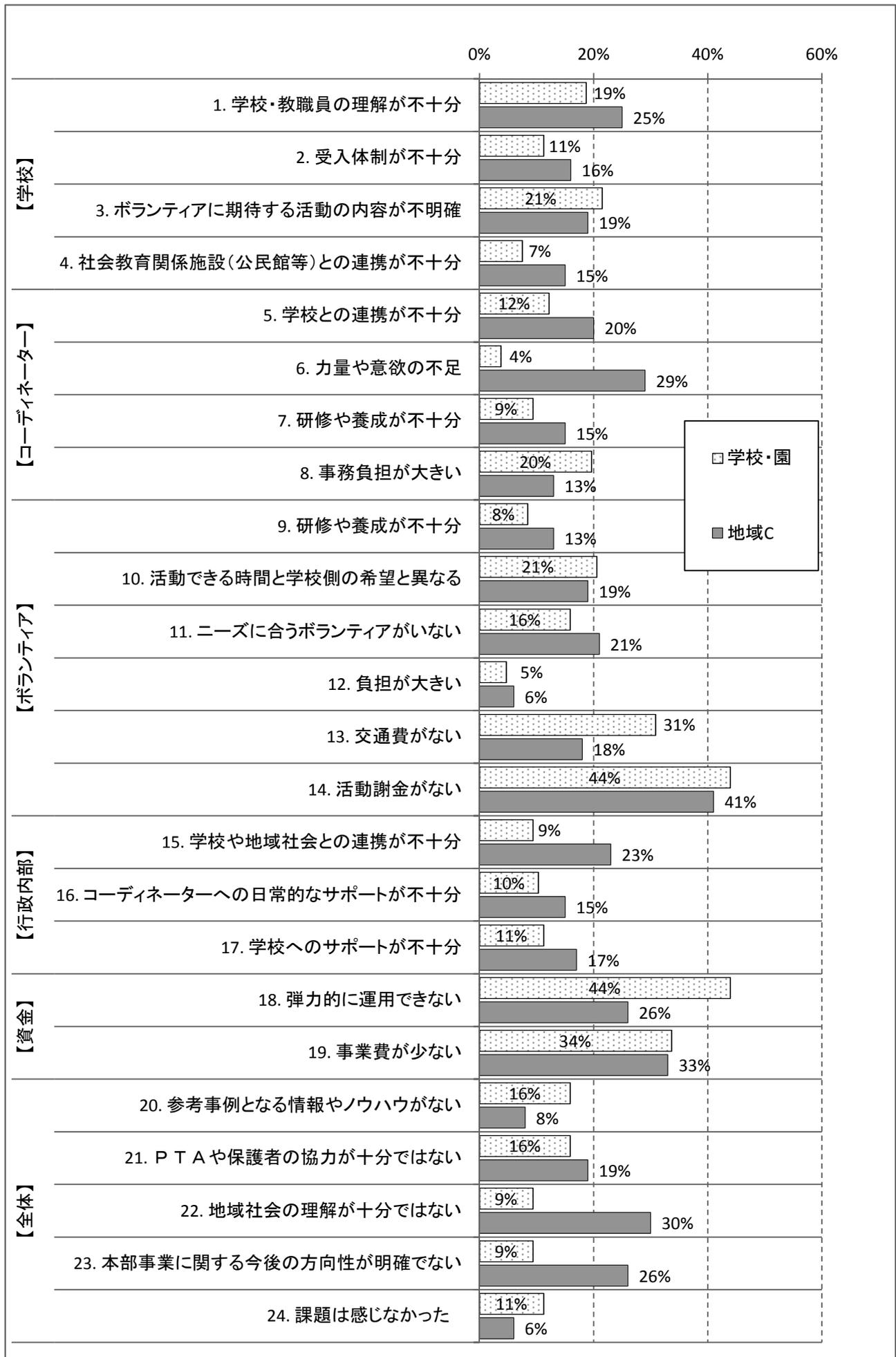
D 地域住民が支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった



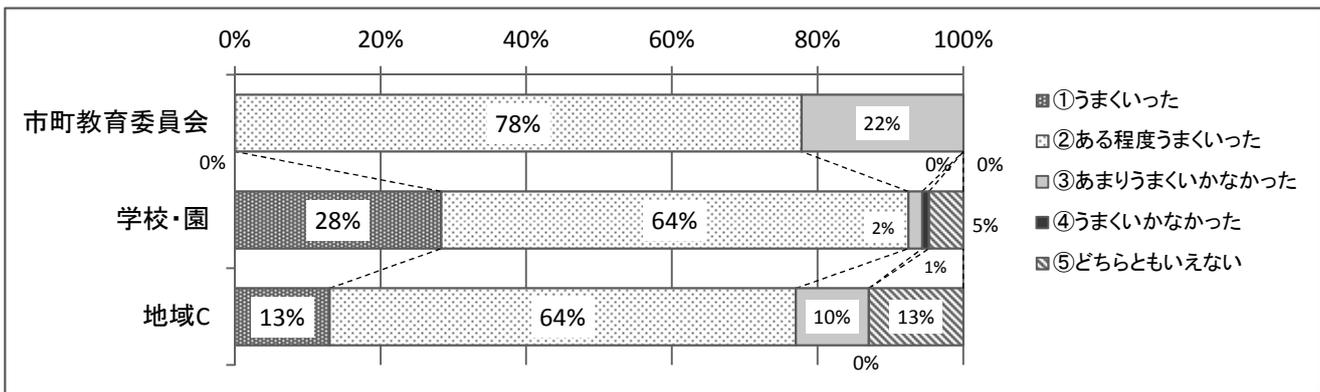
問2-② 貴校・園では、本部事業はどの程度効果があったと考えていますか。[学校・園]



問3 本部事業を実施する上で、とらえている課題は何ですか。(複数回答有)[学校・園、地域コーディネーター]



**問4 本部事業は、順調に進みましたか。[市町教委、学校・園、地域コーディネーター]**



**自由記述（抜粋） [市町教委]**

**②ある程度うまくいった**

- 各本部の主体的な取組みにより、創意工夫ある活動が続けられている。市教委として、予算、人材バンクの整備など、さらに活動が広がる支援をしていきたいと考える。
- 従来より、学校と地域が直接的に行事支援を中心として連携が図られていたが、新たな地域連携の姿を展開するために地域Cが配置された。「学校支援のための地域連携が拡充された」と実感する職員や「地域人材が学校に入りやすくなった」、「支援のつながりを広げていきたい」という地域の方も増え始めている。

**③あまりうまくいかなかった**

- 地域コーディネーターが重要な役割を担っているが、このことを市民だけでなく、もっと行政や学校にも理解を得る啓発が足りなかった。
- 学校からのニーズが出てこない学区については、活動が活発化されない。教職員に本事業の意義等を管理職から十分に説明した上で、ニーズを引き出ししていく必要がある。

**自由記述（抜粋） [学校・園]**

**①うまくいった**

- 地域Cを始め、地域の皆さんが「何かできることは？」「子どもたちのためにできることを」という高い意識をもって支援してくださり、温かい地域性に助けられている。
- 実施年を重ねるごとに、学校Cや本事業に対する意識が高揚し、地域Cをつなぎ役として、学校が地域の教育力を効果的に活用することができている。
- 地域Cの高い関係調整力と人脈、さらに使命感により、多くの地域の皆様の善意に支えられ、子どもが育っていることと、学校教育が円滑に進められているチーム力が地域の皆様の善意で成り立っている。

**③あまりうまくいかなかった**

- 学校としてどのような支援やボランティアを必要としているのか、まずは職員で話し合う必要があった。

**自由記述（抜粋） [地域コーディネーター]**

**①うまくいった**

- 地域Cが間に入って、しんどい思いをすることも多いが、一つの取組が無事に終わると、支援したやりがい、学んだ喜び、双方の笑顔を感じ、人をつなぐ役割の意義を感じる。

**②ある程度うまくいった**

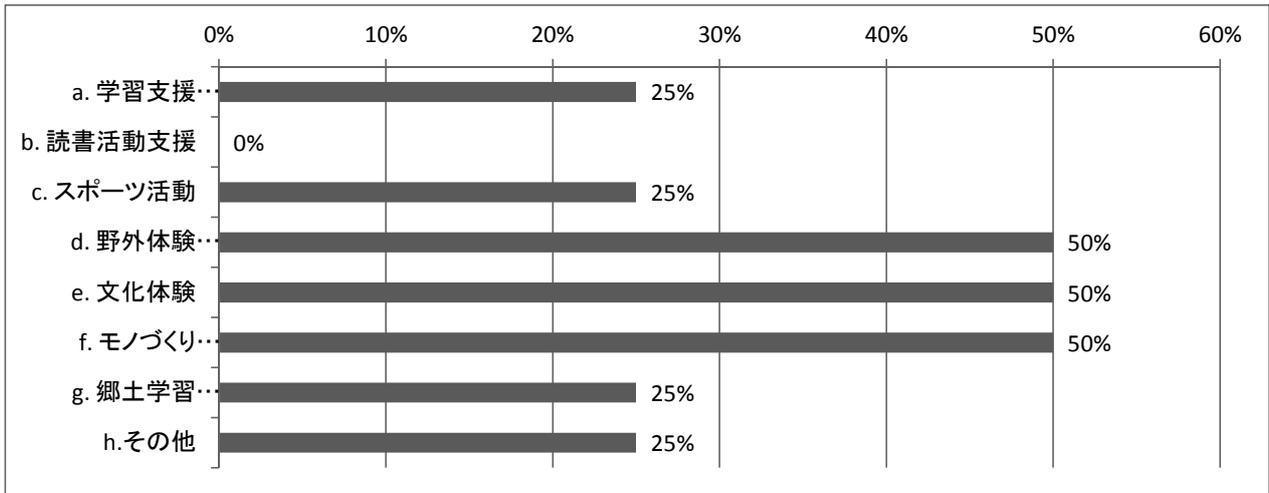
- 地域Cとして依頼された際は不安があった。しかし、勤務校に窓口となる担当教員がおられたのは心強かった。

**③あまりうまくいかなかった**

- この事業に対する住民、市教委、教員の思いが異なっている現状がある。今後、熟議を重ねて、この学区らしい活動を目指したい。

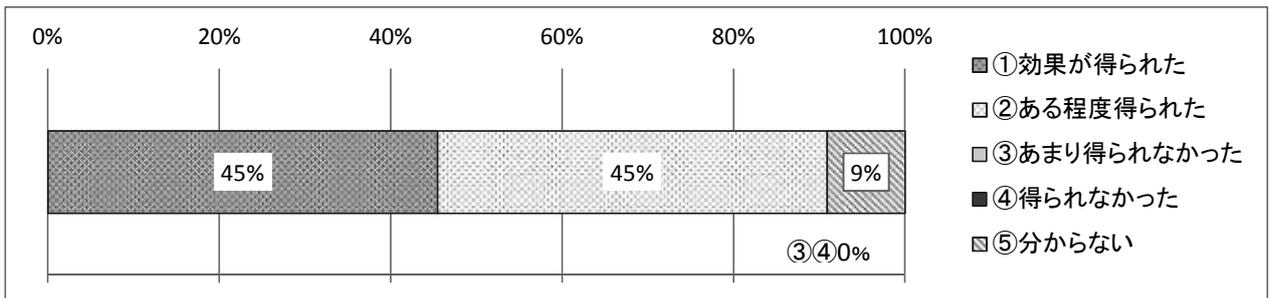
# 【 放課後子ども教室 】

## 問1 放課後子ども教室事業で、特に重視している活動はどれですか。 [放課後コーディネーター]

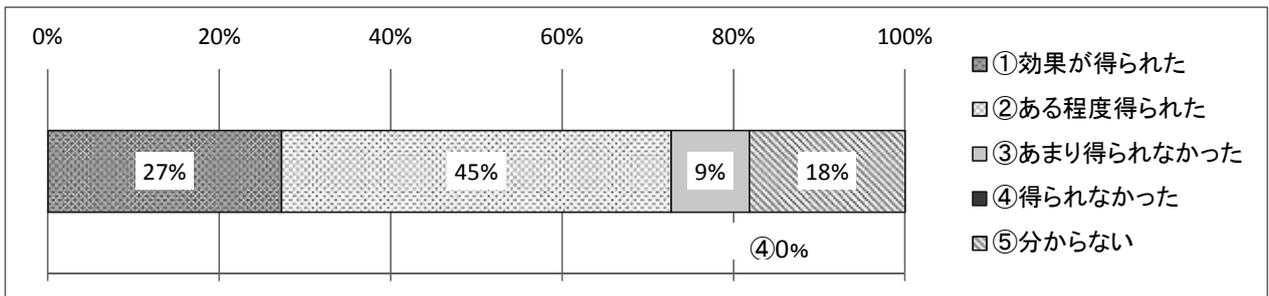


## 問2 放課後子ども教室事業はどの程度効果があったと考えていますか [放課後コーディネーター]

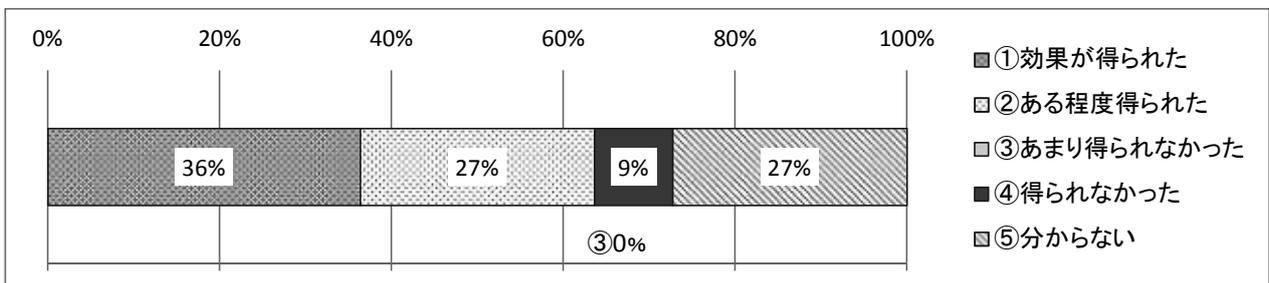
A 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった



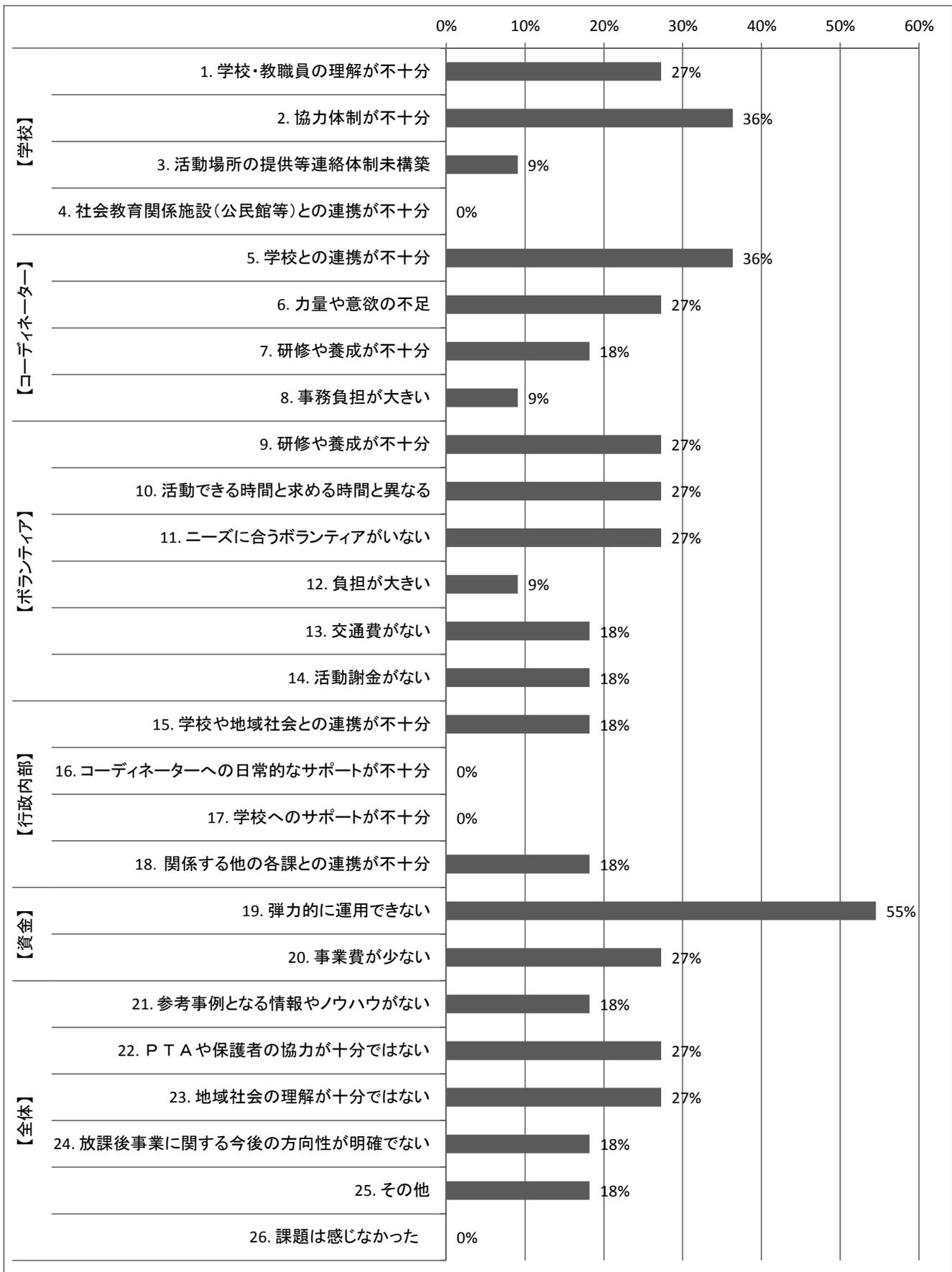
B 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった



C 地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった

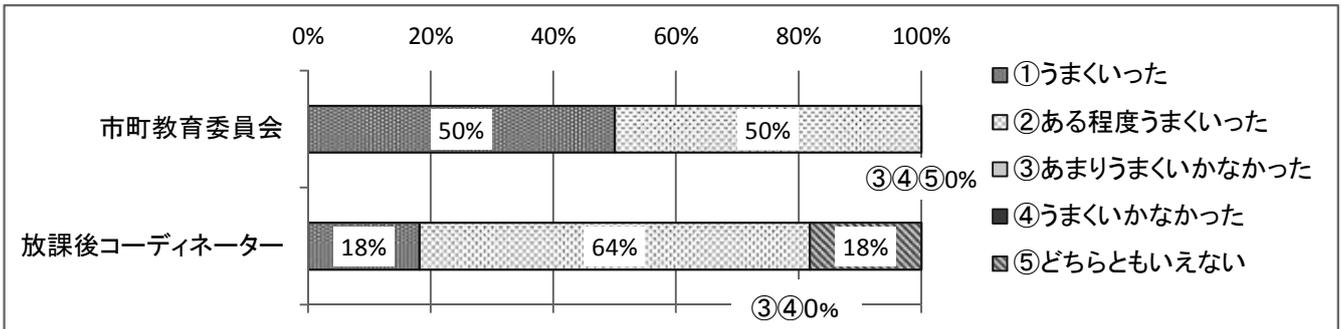


問3 放課後子ども教室事業を実施する上での課題は何ですか。(複数回答有) [放課後コーディネーター]



#### 問4 放課後子ども教室事業は、順調に進みましたか。

[市町教委・放課後コーディネーター]



#### 自由記述(抜粋)【市町教育委員会】

##### ①うまくいった

・各地域から様々な意見をいただくことができ、子ども教室が子どもたちにとって、素晴らしい経験になっているということを実感できた。

##### ②ある程度うまくいった

・大きな問題なく、地域のボランティアの人たちとの連携もうまくいった。

・授業時間内で取り組んでいる学校においては、地域の英語の学習ボランティアの方は、熱意をもって取り組んでくださるが、放課後事業に対する学校・教職員の理解が不十分で、学校としての体制づくりが整っていない。まだ、新しい事業であることから、今後の工夫・改善に期待したい。

・時間外や夜間に地域で学力向上に特化した取組を進めている中学校は、ある程度機能した。

#### 自由記述(抜粋)【放課後コーディネーター】

##### ①うまくいった

・各地域から様々な意見をいただくことができ、子ども教室が子どもたちにとって素晴らしい経験になっているという事を実感できる。

・年々、放課後事業へのボランティアは増えてきた。

・地域内・外の高齢者の方が支援していただくことにより、口コミで事業の内容が広がり、「私にでも協力できる」と放課後事業への関心も高まり、事業に関わることによって、子どもたちと接する時間が楽しいと、率先して参加してもらっている。

##### ②ある程度うまくいった

・母体がしっかりしているので、これまで17年間継続してこられた。特に女性メンバーの力が必要だと感じている。

・昨年度の活動のベースがあるため活動自体に問題はなかったが、「美文字教室」については、小中連携事業として活動する上で、協働体制がしっかりと出来ておらずスタートが遅れた。協力校での話し合いをしっかりと行う必要性を感じた。

・夜の学習会については、地域の方(大人・大学生・高校生)の参加を得、活動につながられた。

・ほぼ計画どおりの活動ができたが、参加者数が少ない点が残念だった。

・地域の方々が取組に対してすごく協力的で、熱心に取り組んでいただくことができ、ありがたく思う。

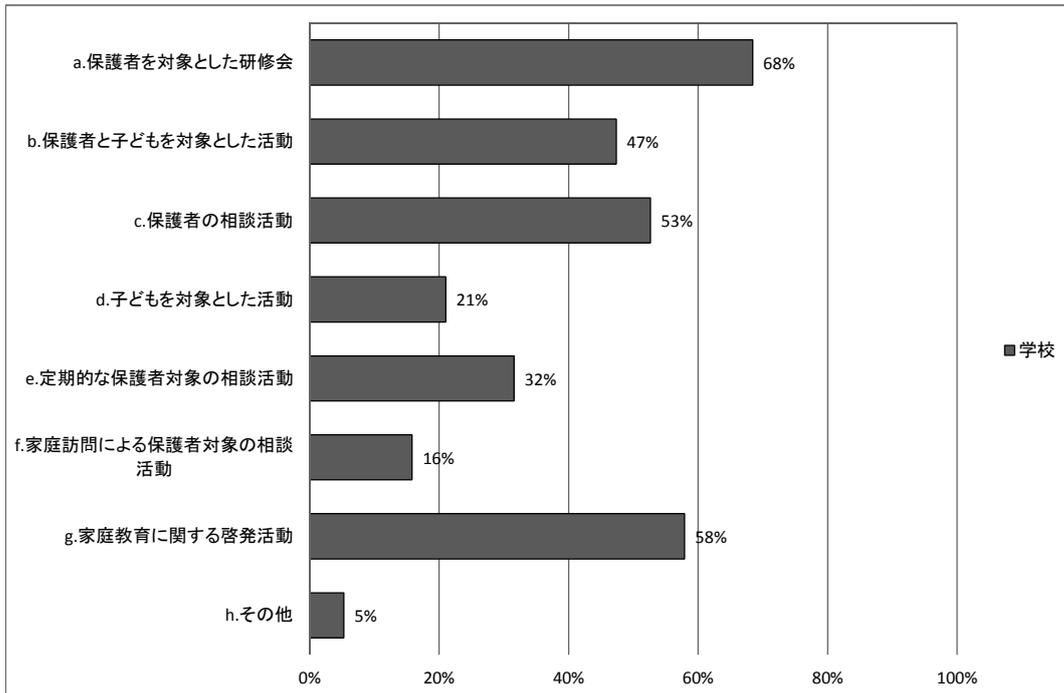
##### ⑤どちらともいえない

・夜の学習会ということで、時間帯が遅いため指導にあたっていただく高校生・大学生が自ずと男子学生になってしまう。送迎の対応までできないため、広く応援していただく方に声をかけられない。

・現在の悩みは、生徒が参加してこないということ。ボランティアは英語を勉強する機会ができて、ある程度満足している。

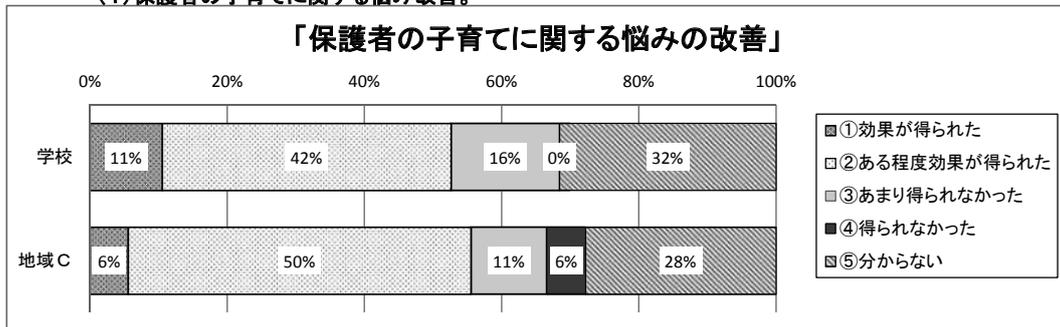
# 【 家庭教育支援活動 】

## 問1. 家庭教育支援として、特に重視している活動はどれですか。【学校・園】

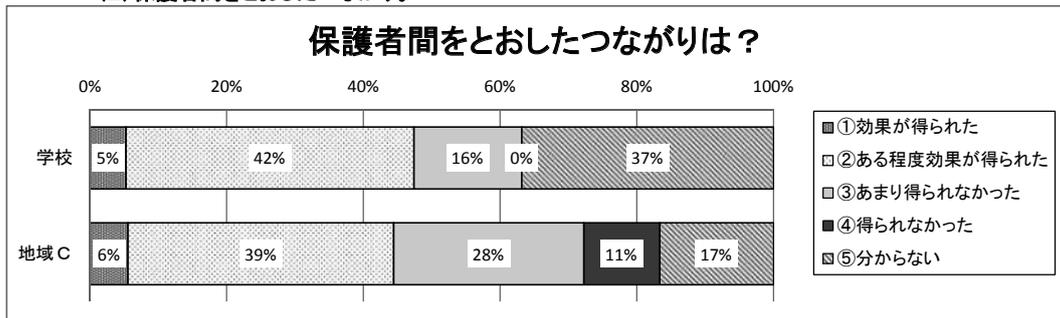


## 問2. 家庭教育支援を実施しての効果は？【市町・地域コーディネーター】

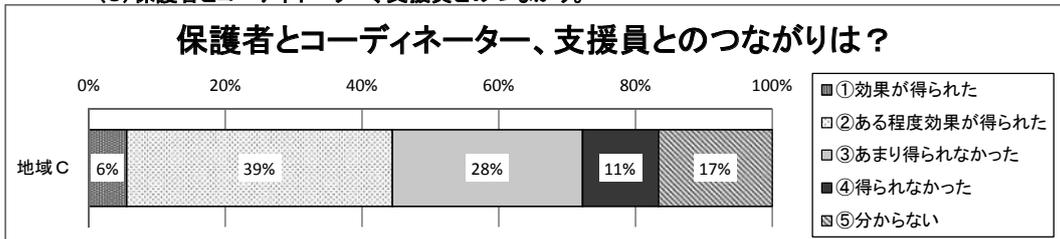
### (1) 保護者の子育てに関する悩み改善。



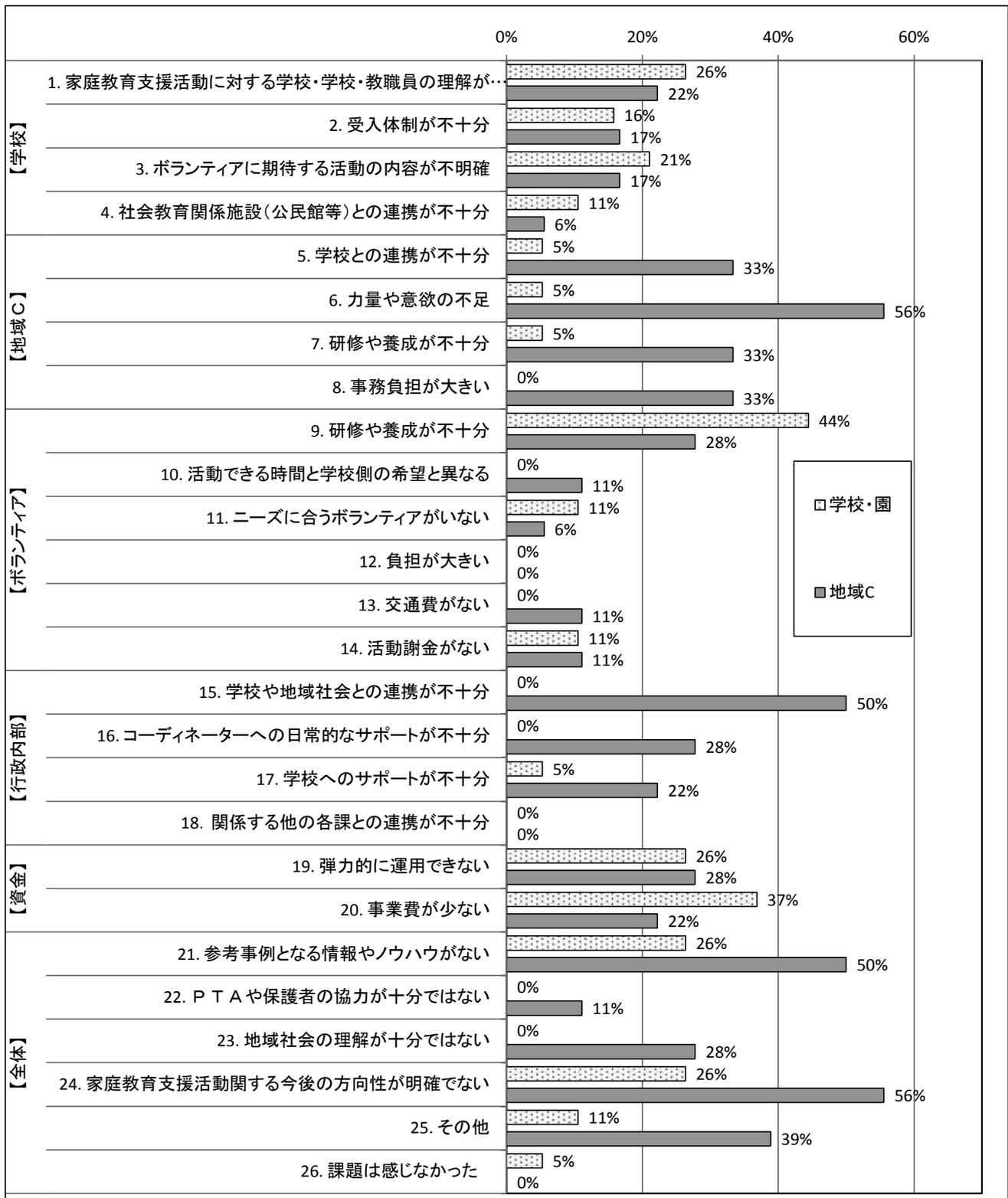
### (2) 保護者間をとおしたつながり。



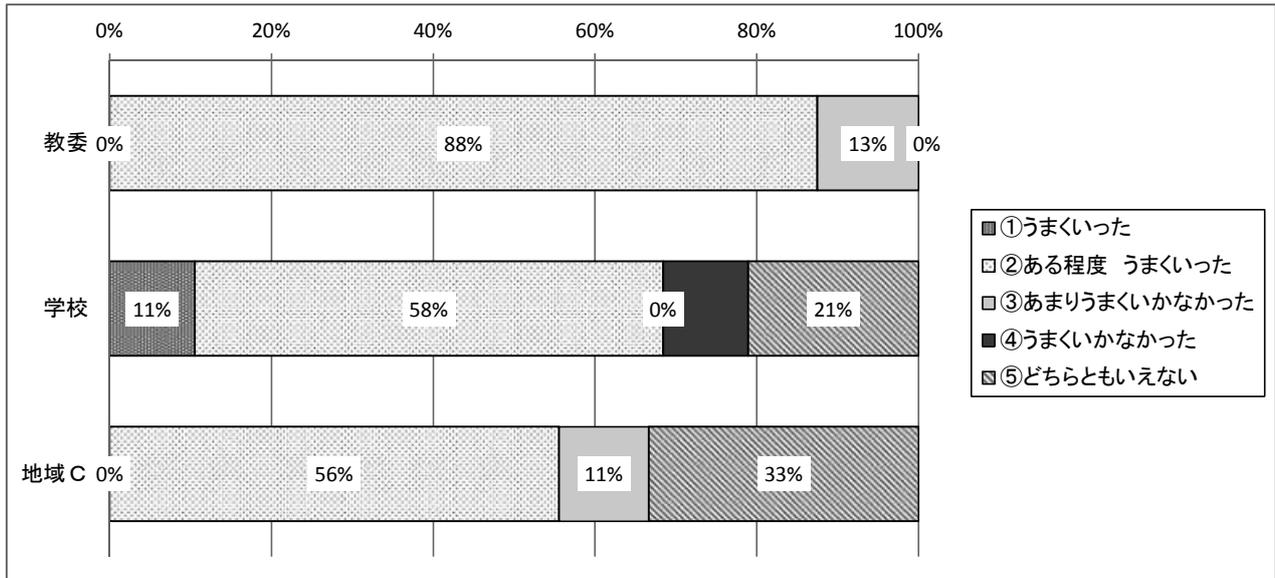
### (3) 保護者とコーディネーター、支援員とのつながり。



問3. 家庭教育支援を実施する上の課題は何ですか？（複数回答有り）【学校、園・地域コーディネーター】



#### 問4. 家庭教育支援は順調に進みましたか。【市町・学校、園・地域コーディネーター】



#### 自由記述抜粋（抜粋）【市町教育委員会】

##### （成果）

- ・家庭教育支援員（コーディネーター）など、子育てサポーターが、幼少期より学童保育指導員、低学年の学習支援員を歴任されていれば保護者は子育ての悩みを打ち明けてくださる。役割というより、学校と子どもを見守ってくれる人といった感覚から、保護者には安心感が生まれ、関係性を保ち、深めることが出来た。
- ・他の関係部署の連携などで問題はあがるが、参加者アンケートでは好評を得ており、参加者の満足度は高い。

##### （課題）

- ・現状では、支援に必要な家庭に行き届く事業とはなっていない。本事業は家庭教育支援であり、学校支援ではないので教育委員会と学校との意識のずれがある。

#### 自由記述抜粋（抜粋）【学校】

##### （成果）

- ・子育ての不安や悩みを気軽に相談できる場を提供することをねらいとして、「親子はなまる広場」を年3回開催し、子育て支援を行うことで、保護者の子育てに対する課題が深刻にならないうちに解決できた。
- ・チームを編成することで、コーディネーターの意識的な負担感が軽くなり、様々な意味でアンテナ役に回ってもらうことができた。つかんでもらった情報をチームで共有することにより、関係機関につないだり、ケース検討会を経て支援体制を組んでいくこともできた。
- ・直接保護者と教育相談する前に、経過などを相談員に伝え、今後の方向性について、いくつか案を持って臨むことが出来た。（子ども支援課や障がい福祉課、などにつながる窓口や手順を示す準備をしておく）相談内容から、相談者の了解のもと、関係機関と連絡をとり、スムーズにつながるよう段取りをつけることができた。

##### （課題）

- ・活動は、年2回の「子育てサロン」の開催が中心となるが、参加者からは好評である。しかし、深刻な悩みに関しては、時間数も少なく、十分な対応が出来ていない。本事業において、どの程度まで家庭教育支援を目指すのかを明示していきたい。

#### 自由記述抜粋（抜粋）【地域C】

##### （成果）

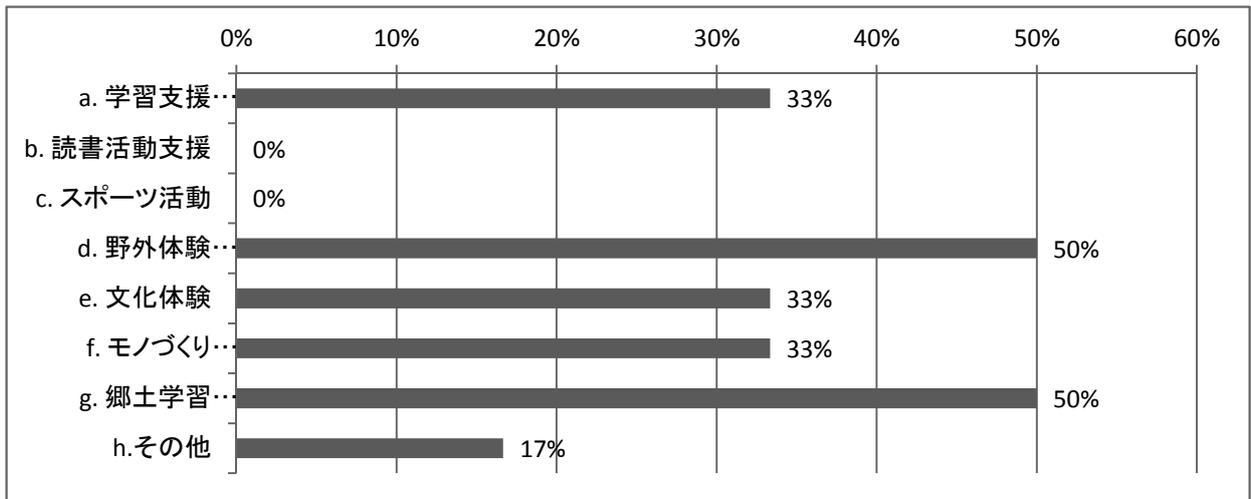
- ・毎週同じ曜日にサロンを開いているので、母親同志の接点の場となり、子どもの寄り添い支援で子どもの様子を親に伝えることができたのは良かった。自分たちの活動は、親にアドバイスというより寄り添い、一緒に考えることを主にしている。
- ・家庭教育支援員が、1年間学校に毎日通う事で、子ども達の様子や変化に気づきやすい。また教員との連携が取りやすい。家庭教育支援活動を訪問型へステップアップさせていきたい。不登校児童とのつながりも継続していきたい。
- ・情報共有することで、保護者への様々な働きかけができた。

##### （課題）

- ・深刻な悩みを持つ保護者の支援は、コーディネーターとして活動不十分である。深刻な問題に携わる時間数も少なく、そこまで要求されると思っていなかったため、今後もその対応が要求されれば、自分に対応する力量や意欲があるかを再考する必要がある。

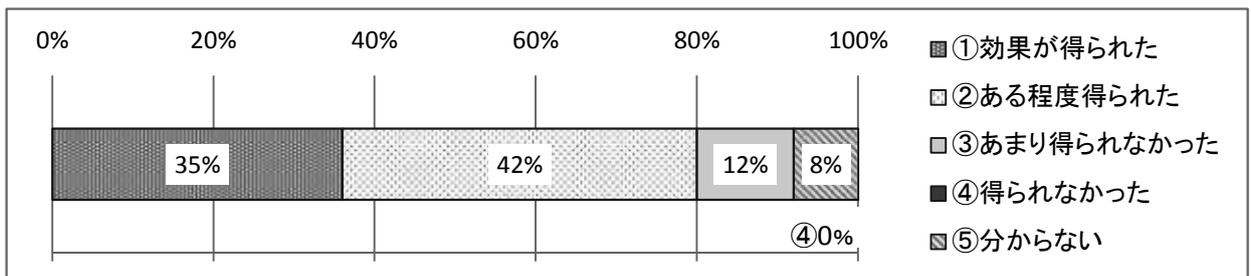
# 【土曜日の教育支援事業】

問1 土曜日事業で、特に重視している活動はどれですか。 [土曜コーディネーター]

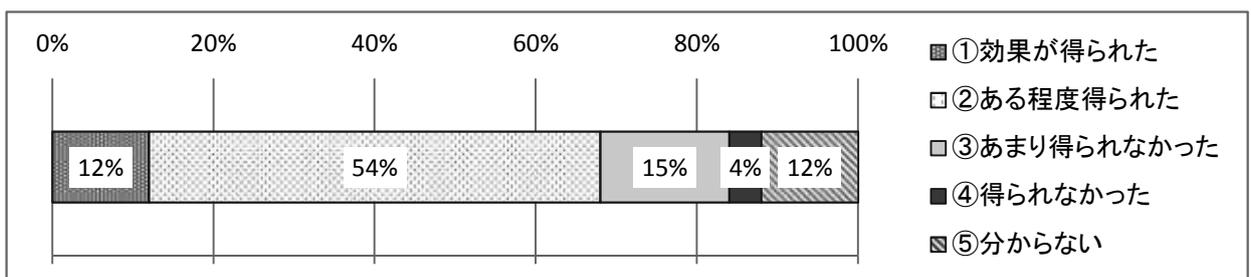


問2 土曜日事業はどの程度効果があったと考えていますか。 [土曜コーディネーター]

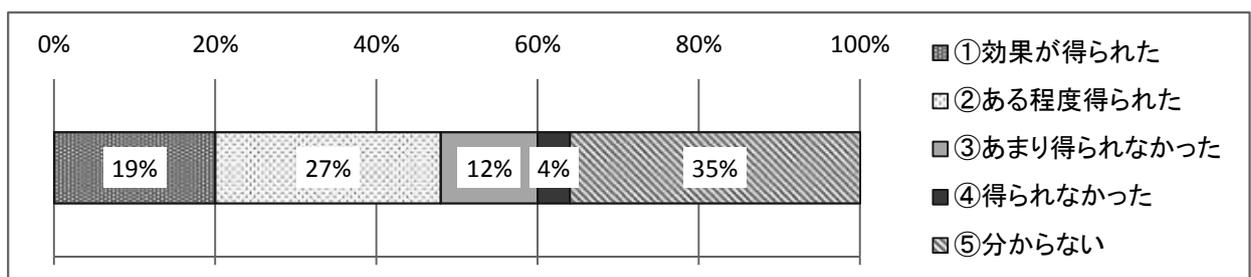
A 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった



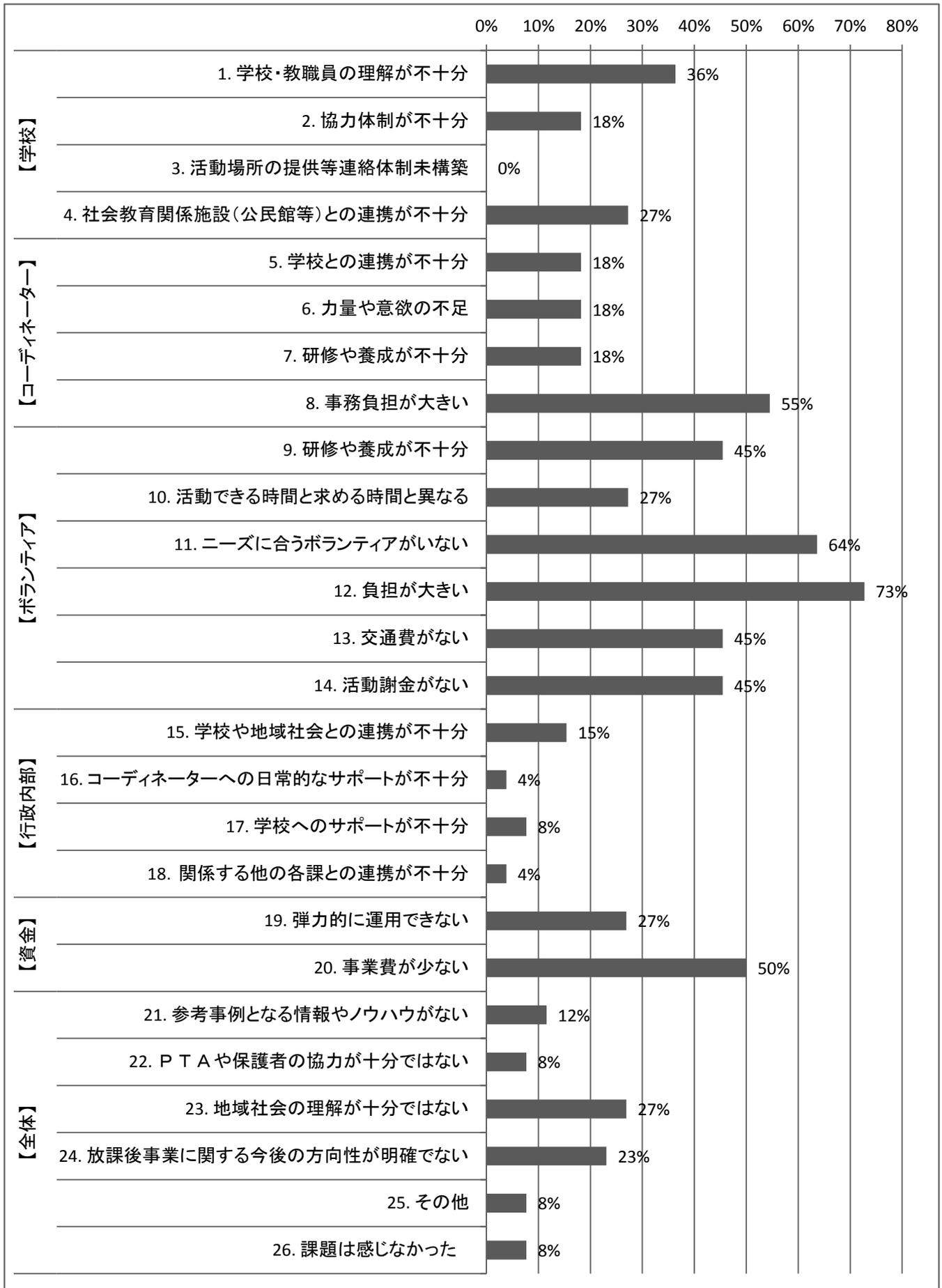
B 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった



C 地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった

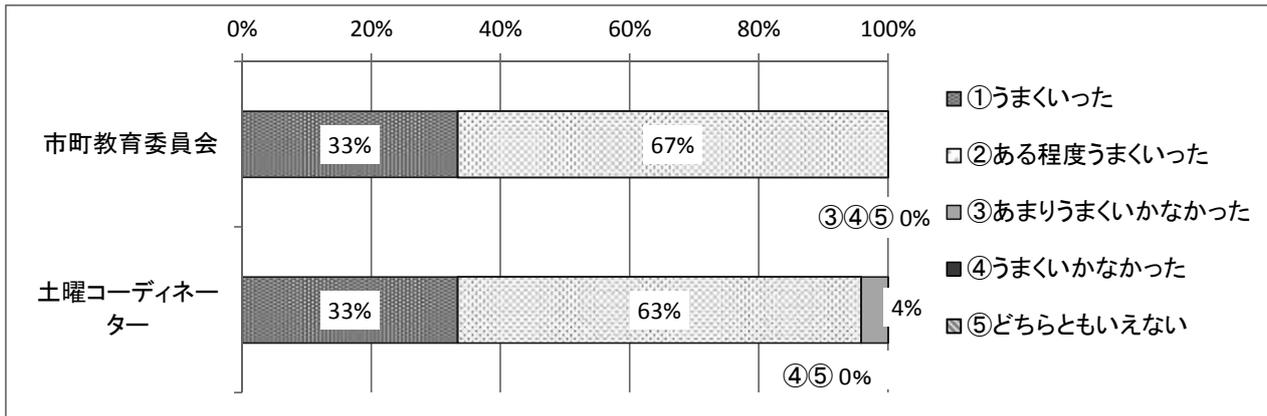


**問3 土曜日事業を実施する上での課題は何ですか。(複数回答有) [土曜コーディネーター]**



#### 問4 土曜日事業は、順調に進みましたか。

【市町教委・土曜コーディネーター】



#### 自由記述(抜粋)【行政】

##### ①うまいった

・小学校段階で保護者が中学校での土曜講座の取組について、話題としている姿も見かけ、「中学生になったら是非、参加させたい」との声を聞くことがある。生徒自身が学習が分かるようになったとの実感を持てる内容であったことが、中学校生徒の1/4にあたる参加率となっていると思われる。

##### ②ある程度うまいった

・土曜学習コーディネーターの連絡、調整により、学生ボランティア等がうまく参画できている。  
 ・比較的少人数を対象にしているが、宿題教室、ドリル等を活用して学習の基礎・基本の定着を図る学習、ロボット教室等で、学校の授業では力が発揮できなかった子どもが、教室で挙手して発表したり、音読、朗読を自信を持って行ったりする場面が見られる。学力が低位の子どもの学ぶ力の底上げの一つになっている。

#### 自由記述(抜粋)【土曜コーディネーター】

##### ①うまいった

・月曜日の夜に運営している学び育ち教室のノウハウ(子どもとの接し方、教材など)を活用した。しかしながら、子どもの数が増えると、推進員の数も増員する必要がある。子どもの成長を考えると、数ではなく、質をとることが大切だと思う。  
 ・地元の営農組合や管理栄養士と連携を図り、それぞれの得意とする分野を担当することで、子どもたちが楽しく学べる環境や題材を提供でき、参加者だけでなく講師や行政それぞれが得るものがあった。  
 ・アンケートへの回答に、参加の親子で新たな一面を発見することが多くあり、感動をしてもらっている等、事業をすることによる満足感を感じさせてもらっている。  
 ・事前に学校の要望をきちんと聞き取り、計画をしっかり立て、十分な協議を行った。

##### ②ある程度うまいった

・これまでの実績を見ると、参加者は学区内にとどまることなく市内の広範囲に渡っており、多くの小中学校の児童・生徒の交流が図れる貴重な機会ともなっている。  
 ・毎年度、事業終了後に実施するアンケートの回答を見ても、参加者・保護者ともに高い評価を得られており、当事業に対する期待の大きさが伺える。少ないスタッフでありながらも、参加者にとっては満足のいく内容の濃い講座運営ができていものと評価できる。  
 ・親子・家族のわくわく講座では、公民館で活動している団体を講師に迎え、親子と地域住民をつなぐ活動とした。  
 ・企画は新しいものを取り入れ、また昨年まで好評だったものを継続して、一定評価いただいている。以下の点で②と回答。  
 1. 少子化に伴う参加児童数の減少  
 2. 土曜日の過ごし方が多様化してイベントも多く、全体的な対象者の減少  
 ・夏休みに行った土曜教室は参加者が多く盛況であった。その数の多さに学習の機会(居場所とも)の需要を感じた。  
 ・また参加した児童は、学習面でも情緒面でも(家庭環境も)課題をもっている場合も見受けられ、そのあたりを受け止められるボランティアを、必要な数だけそろえたいが、謝金が十分でないのが心苦しい。  
 ・新たに協力いただける施設(まちづくりセンター)も増え、まち協の方とのつながりもでき、少しずつですが内容にも変化があり、参加児童・協力者も増えつつあります。  
 ・まちづくり協議会を中心に、地域の小学校2校が共同で土曜日事業を行うことができ、前進した。  
 ・ボランティアとして中学生に活動に参加・協力してもらったことで、小学生とのつながりが今まで以上に強いものになった。  
 ・外国にルーツを持つ子どもたちの勉強会にも、地域住民に参加してもらうことで、学力向上ならびに外国にルーツを持つ子どもたちへの理解を深めてもらうことができた。  
 ・中学校区内の2校の小学校との連携で企画・運営にあたったが、どちらの企画も、参加小中学生の成長と成果が感じられ、有意義な活動となったと感じた。